



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Security ArcSight Logger

ソフトウェアバージョン: 6.4

データ移行ガイド

2017年7月21日

ご注意

保証

Hewlett Packard Enterprise製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Hewlett Packard Enterpriseはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

本書の例で使用しているネットワーク情報 (IPアドレスやホスト名を含む) は、説明のみを目的としています。

HPE Security ArcSight製品は高い柔軟性を持ち、お客様の設定に応じて機能します。データのアクセス性、完全性、機密性については、ユーザーが責任を負います。包括的なセキュリティ戦略を実施し、優れたセキュリティ慣習に従ってください。

本書は機密情報です。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、Hewlett Packard Enterpriseからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2017 Hewlett Packard Enterprise Development, LP

著作権と承認の完全な表明については、以下のリンク先をご覧ください。

<https://community.saas.hpe.com/t5/Discussions/Third-Party-Copyright-Notices-and-License-Terms/td-p/1589228>

サポート

連絡窓口

電話	電話番号の一覧は、HPE Security ArcSightテクニカルサポートページに記載されています。 https://softwaresupport.hpe.com/documents/10180/14684/esp-support-contact-list
サポートWebサイト	https://softwaresupport.hpe.com
Protect 724コミュニティ	https://community.saas.hpe.com/t5/ArcSight/ct-p/arcSight

目次

Logger間のデータ移行	4
概要	4
データ移行プロセス	5
サポートされる移行パス	6
移行の前提条件	7
Logger間のデータの移行	9
Loggerアプライアンスから移行されるデータ	9
Loggerアプライアンスからのデータの移行手順	10
ソースLoggerとターゲットLoggerの移行準備	11
セットアップスクリプトの実行	12
データ移行ユーティリティの実行	14
データ移行の完了	17
イベントアーカイブ設定の個別移行	19
イベントアーカイブの移行手順	19
移行後の作業	27
トラブルシューティング	28
ドキュメントのフィードバックを送信	29

Logger間のデータ移行

本書は、サポートされるHPE Security ArcSight Logger間でデータおよびイベントアーカイブの設定を移行する方法について説明します。このガイドの情報は、ArcSightデータプラットフォーム (ADP) Logger、スタンドアロンArcSight Loggerバージョン6.4 (L10083) およびLoggerデータ移行ユーティリティ6.4 (DM6.4-D1110) に適用されます。

注: 特に違いがない限り、本書ではすべてのタイプのLoggerを総称して、Loggerと表記します。

概要

Logger間のデータ移行は、次のような状況で必要となります。

- ストレージ容量がもっと大きいLoggerにデータを移動する場合。
- Loggerの旧モデルから現行モデルにデータを移動する場合。
- LoggerアプライアンスからソフトウェアLoggerにデータを移動する場合。

Loggerアプライアンス上のイベントデータは、以下のデバイスに移行できます。

- 同等以上の容量を持つ別のLoggerアプライアンス。
- サポートされるオペレーティングシステムにインストールされているソフトウェアLogger。

この機能は、ストレージエリアネットワーク (SAN) と非SANの両方のLoggerに適用されます。

注: ソフトウェアLoggerから任意のタイプの別のLoggerへの移行はサポートされていません。サポートされる移行パスのリストについては、「[サポートされる移行パス](#)」(6ページ) を参照してください。

データ移行プロセス

HPE Security ArcSightには、2つのLogger間でデータを移行するためのデータ移行ユーティリティがあります。このユーティリティは、ソースLogger用とターゲットLogger用の2つのスクリプトで構成されています。これらのスクリプトは、「[Loggerアプライアンスからのデータの移行手順](#)」(10ページ)で説明されているように、ソースLoggerとターゲットLogger上で並列で実行する必要があります。

データを移行するには、ソースとターゲットの両方のLoggerが稼働している必要があります。データ移行プロセスは、ダウンして機能していないLoggerからのデータ移行や、LoggerのローカルストレージからNFSストレージへのデータ移行に使用することはできません。

このユーティリティは、ソースLoggerからターゲットLoggerへデータをコピーします。したがって、ソースLogger上のデータは、移行が正常に完了した後も保持されます。ターゲットLogger上には、移行前にはデータが存在しないようにします。

ターゲットLogger上の設定およびイベントデータは、このユーティリティによって上書きされます。ターゲットLoggerアプライアンスに既存のデータが存在する場合、HPE Security ArcSightでは、移行を開始する前にアプライアンスを元の工場出荷時設定に復元することをお勧めします。

データ移行時は、LoggerサーバーとPostgreSQLサーバー以外のすべてのLoggerプロセスが停止します。したがって、どのLoggerも、このフェーズ中にイベントを受信することはできません。ただし、両方のLoggerへのSSHアクセスは可能です。

移行中は、ソースLogger上のスケジュールされたタスクも一時停止しますが、移行が完了すると、タスクはソース上でスケジュールどおり再開します。「[Logger間のデータの移行](#)」(9ページ)で説明されているように、スケジュールされたタスク情報はターゲットLoggerに移行されません。したがって、スケジュールされたタスクは、移行後に明示的に設定するまでターゲットLogger上で実行されません。

サポートされる移行パス

移行にかかる時間は環境によって異なり、5時間から18時間、あるいはそれ以上かかる場合があります。データの移行に必要な時間は、2つのLogger間の接続、移行対象データの量、イベントデータのサイズ、各Loggerのフォームファクター、選択する移行オプションによって決まります。

Logger間のデータの移行には、少なくとも1 Gbpsのネットワーク帯域幅を専用に確保できる高速ローカルエリアネットワーク (LAN) 接続を使用してください。データの移行速度は、ネットワーク速度とトラフィックの影響を受けます。

注: HPE Security ArcSight では、移行に広域ネットワーク (WAN) を使用することは推奨していません。ネットワーク遅延が発生しないように、Loggerアプライアンス同士をクロスケーブルで接続することを強くお勧めします。

下の表は、2つのLogger間のデータ移行でサポートされているパスです。

移行パス	ソース/移行元	バージョン	ターゲット/移行先	バージョン
アプライアンスからアプライアンス	Lx500	6.4	L7600	6.4
アプライアンスからソフトウェア	Lx500	6.4	ソフトウェアLogger	6.4
SANアプライアンスから非SANアプライアンス	L7500-SAN	6.4	L7600	6.4
SANアプライアンスからソフトウェア	L7500-SAN	6.4	ソフトウェアLogger	6.4

Loggerの旧バージョン用のデータ移行ツールおよびサービスは、HPEプロフェッショナルサービスから入手できます。

移行の前提条件

データ移行プロセスを開始する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

対象	前提条件
ターゲット Logger	<ul style="list-style-type: none">ソース Logger と同じかそれ以上の容量が必要です。このセクションに記載された設定だけを行った新しい Logger であるか、(Logger アプライアンスの場合は)元の工場出荷時設定に復元された Logger である必要があります。Logger を工場出荷時設定に復元する方法については、『Logger 管理者ガイド』を参照してください。ターゲット Logger のストレージボリュームは、少なくともソース Logger のストレージボリュームと同じ大きさである必要があります。ターゲット Logger ソフトウェアをインストールしたら、データを移行する前に、ストレージボリュームがソース Logger のストレージボリュームと同じ大きさ以上であることを確認してください。 <p>ターゲット ソフトウェア Logger の場合：</p> <ul style="list-style-type: none">"root" ユーザーとしてインストールする必要があります。root 以外のユーザーの一意の識別子 (UID) とグループ識別子 (GID) は、ソース Logger の同じユーザーの UID と GID に一致するように、それぞれ 1500 と 750 である必要があります。
Logger バージョン	<p>Logger は両方とも、移行がサポートされている Logger バージョンを実行している必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">ソース LX400 Logger アプライアンスは、Logger バージョン 6.1 からアップグレードできます。他のソース Logger はすべて、Logger バージョン 6.4 を実行している必要があります。ターゲット Logger はすべて、Logger バージョン 6.4 を実行している必要があります。 <p>注： 移行前に、アプライアンスを適切なバージョンにアップグレードしてください。</p>
時刻設定	<p>時刻設定 (タイムスタンプとタイムゾーン) は、両方の Logger で一致している必要があります。</p>
ストレージグループ	<p>ターゲット Logger は、デフォルトのストレージグループか、追加のストレージグループを使用して設定できます。</p> <p>注意：</p> <ul style="list-style-type: none">ターゲット Logger のストレージグループ設定は、ソース Logger の情報で上書きされます。したがって、移行後にターゲットで使用できるのは、ソース Logger に存在していたストレージグループのみです。データ移行プロセス中には、ターゲット Logger のストレージボリュームに対して、100% のスペース事前割り当てが実行されます。ターゲットに事前割り当てスペースが存在する場合は、上書きされます。

対象	前提条件
NFS/CIFSマウント名	<p>ソースLoggerとターゲットLogger上のリモートマウントポイントは一致している必要があります。</p> <p>注意: データ移行の開始前に、ターゲットLogger上でマウントポイントが正しくセットアップされていない場合、プロセスは失敗します。</p> <p>マウントポイントを設定するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Loggerアプライアンスターゲット—Loggerのシステム管理インターフェイスを使用します。 • ソフトウェアLoggerターゲット—お使いのオペレーティングシステムに合わせて、マウントポイントを手動で設定します。 <ol style="list-style-type: none"> a. マウントポイントディレクトリが、Logger環境のroot以外のユーザー名 (通常は、name=arcssight、group name=arcssight、groupid=750、userid=1500) に属していることを確認します。 b. 次のmountコマンドを使用して続行します。mount NFS_IP:<共有ディレクトリ> <Loggerのマウントポイント>。例: mount 192.0.2.0:/opt/export /opt/mnt/SL_NFS c. /etc/exports共有ディレクトリのNFSサーバーに、パラメーターno_root_squashが含まれていることを確認します。例: /opt/export *(rw, sync, no_subtree_check, no_root_squash) <p>すべてのストレージグループが、ターゲットシステムに追加されていることを確認します。『管理者ガイド』の「ストレージグループの追加」を参照してください。</p> <p>以下の設定パラメーターがすべて存在することと、その値がソースLoggerとターゲットLoggerで同じであることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • マウント数 • マウント名 • マウントパス • ホスト名
イベントアーカイブ	<p>ソースLogger上にイベントアーカイブがロードされている場合は、データ移行プロセスを開始する前にアンロードします。『管理者ガイド』の「アーカイブのロードとアンロード」を参照してください。</p>
アーカイブ設定	<p>イベントをNFSサーバーまたはCIFSサーバーにアーカイブする場合は、ターゲットLogger上でマウントポイントが設定されていることと、サーバーが動作中でターゲットLoggerからアクセス可能であることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これを確認するには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [システム管理] > [リモートファイルシステム] に移動します。 2. ソースの情報をターゲットフィールドにコピーします。 <p>マウントポイントの設定は、次のように行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Loggerアプライアンスターゲット—Loggerのシステム管理インターフェイスを使用します。 • ソフトウェアLoggerターゲット—お使いのオペレーティングシステムに合わせて、マウントポイントを手動で設定します。

Logger間のデータの移行

ソースがLoggerアプライアンス (SANまたは非 SAN) の場合、ライブストレージ内のイベントデータ、アーカイブ済みイベント設定、一部のLogger設定データを、サポートされるタイプの別のLoggerに移行することができます。

Loggerアプライアンスから移行されるデータ

データ移行スクリプトを使用すると、Loggerアプライアンスから次のイベントデータおよび設定データが移行されます。移行されないデータタイプの例については、「[Loggerアプライアンスから移行されないデータ](#)」(10ページ)を参照してください。

Loggerアプライアンスから移行されるデータ

- カスタムスキーマフィールド
- デバイス
- イベントアーカイブ設定 (アーカイブの設定メタデータとマッピング)

注意: データ移行プロセス中にアーカイブ移行をスキップすると、アーカイブの設定メタデータとマッピングは移行されません。移行後は、アーカイブを移行するまで、アーカイブにアクセスすることはできません。詳細については、「[イベントアーカイブ設定の個別移行](#)」(19ページ)を参照してください。

- イベントデータとそのメタデータ
- グローバルサマリーデータ ([[サマリー](#)]メニューオプション)

注: グローバルサマリーパーシステンスは、Logger 5.3 SP1で無効になりましたが、既存のグローバルサマリーデータは引き続き移行されます。

- インデックス情報
- ルックアップファイル

注: ターゲットLogger上のデータ移行ファイルのパスが、ソースLogger上のパスと異なる場合は、データ移行の既知の問題により、ルックアップファイルは正しく移行されません。移行されないデータの処理方法については、「[イベントアーカイブ設定の個別移行](#)」(19ページ)を参照してください。

- パーサー定義
- レシーバー
- 保存情報

- ソースタイプ情報
- ストレージグループ
- スーパーインデックス情報

Loggerアプライアンスから移行されないデータ

- アラート
- すべてのスケジュールされたジョブ
- アーカイブ済みデータ (イベントアーカイブ設定を移行すると、イベントアーカイブデータの表示とアクセスが可能になります)
- 設定 バックアップの設定
- 日次アーカイブの設定
- ダッシュボード
- デバイスグループ
- ESM通知先
- フィルター (システムフィルター、ユーザー定義フィルター、PCI/SOXパッケージフィルターなど)
- フォワーダー
- ピア設定
- レポート (発行済みレポートなど)
- 保存された検索
- ストレージルール

注意: ターゲットLoggerに移行されないデータの移動を目的として、設定のバックアップおよび復元機能を使用しないでください。移行されないデータの処理方法については、「[イベントアーカイブ設定の個別移行](#)」(19ページ)を参照してください。

Loggerアプライアンスからのデータの移行手順

Logger間でデータを移行するには、次の手順を実行します。

注: 必ず、ターゲットLoggerスクリプトを開始してから、ソースLoggerスクリプトを開始してください。逆の順序では、データ移行プロセスが期待どおりに進行しません。

データ移行が途中で失敗した場合は、「[トラブルシューティング](#)」(28ページ)を参照してください。

ソースLoggerとターゲットLoggerの移行準備

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
1	作業を続行する前に、ソースLoggerとターゲットLoggerが「 移行の前提条件 」(7ページ)にリストされている要件を満たしていることを確認します。	
2	ソースLoggerをリブートします。	
3	次のファイルをコピーします。 datamigration-6.4-D1110.tar.gz コピー先: /opt/arcsight/logger これはLoggerのホームディレクトリで、データ移行ユーティリティからARCSIGHT_HOMEとして参照されます。	次のファイルをコピーします。 datamigration-6.4-D1110.tar.gz コピー先 ディレクトリ: <ul style="list-style-type: none"> Loggerアプライアンス: /opt/arcsight/logger ソフトウェアLogger: Loggerのインストール先のディレクトリパスを使用します。デフォルト値は次のとおりです。 /opt/current/arcsight/logger これはLoggerのホームディレクトリで、データ移行ユーティリティからARCSIGHT_HOMEとして参照されます。
4	LoggerにSSHでアクセスし、“root”ユーザーとしてログインします。	LoggerにSSHでアクセスし、“root”ユーザーとしてログインします。
5	次のコマンドを使用して、ARCSIGHT_HOME環境変数を設定します。 export ARCSIGHT_HOME= /opt/arcsight/logger	次のコマンドを使用して、ARCSIGHT_HOME環境変数を設定します。 export ARCSIGHT_HOME= /opt/arcsight/logger ソフトウェアLogger上で環境変数を設定するには、次のコマンドを実行します。 export ARCSIGHT_HOME= <Loggerのインストールディレクトリ>/current /arcsight/logger デフォルト値は次のとおりです。 /opt/current/arcsight/logger
6	次のコマンドを入力して、Loggerのホームディレクトリに移動します。 cd \$ARCSIGHT_HOME	次のコマンドを入力して、Loggerのホームディレクトリに移動します。 cd \$ARCSIGHT_HOME
7	次のコマンドを入力して、圧縮ファイルを解凍します。 tar xzvf datamigration*.tar.gz	次のコマンドを入力して、圧縮ファイルを解凍します。 tar xzvf datamigration*.tar.gz

セットアップスクリプトの実行

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
8	次のコマンドを入力して、セットアップスクリプトを実行します。 bin/scripts/dataMigrationSource_rsh_setup.sh	次のコマンドを入力して、セットアップスクリプトを実行します。 bin/scripts/dataMigrationTarget_rsh_setup.sh
9		ARCSIGHT_HOMEディレクトリを確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を入力します。 「n」と入力した場合は、正しいARCSIGHT_HOMEディレクトリを入力するプロンプトが表示されます。 ディレクトリの入力後に、入力した場所を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を再入力します。
10		これがアプライアンスであるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。
11		/etc/hosts.denyファイルを編集して、次の情報を追加します。 in.rlogind: all in.rshd: all
12		/etc/hosts.allowファイルを編集して、次の情報を追加します。 all: <ソースIPアドレス> <ソースIPアドレス>はソースLoggerのIPアドレスです(クロスケーブルを使用している場合を除く)。 注: クロスケーブルを使用している場合は、ケーブルの接続先のネットワークインターフェイスカード (NIC) のIPアドレスを入力してください。

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
13		<p>次のファイルが存在しない場合は作成します。</p> <ul style="list-style-type: none">• /etc/hosts.equiv• /root/.rhosts <p>ファイルを編集して、次の情報を追加します。</p> <p><ソースIPアドレス> root</p> <p><ソースIPアドレス>はソースLoggerのIPアドレスです (クロスケーブルを使用している場合を除く)。</p> <p>注: クロスケーブルを使用している場合は、ケーブルの接続先のNICのIPアドレスを入力してください。</p>

データ移行ユーティリティの実行

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
14		<p>次のコマンドを入力して、データ移行ユーティリティを実行します。</p> <pre>bin/scripts/dataMigrationTarget.sh</pre> <p>ヒント: スクリプトは、Ctrl+Cキーを押すことで、いつでも終了できます。</p>
15		<p>ソフトウェアLoggerでは、rootではないユーザーが“arcsight”であるかどうかを尋ねるプロンプトが表示される場合があります。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、Loggerのインストール時に使用したroot以外のユーザー名を入力します。</p> <p>ユーザー名の入力後に、内容を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力してユーザー名を再入力します。</p>
16		<p>ソースLoggerでデータ移行スクリプトを実行するよう促すメッセージが表示されます。</p>
17	<p>次のいずれかのコマンドを入力して、データ移行ユーティリティを実行します。</p> <pre>bin/scripts/dataMigrationSource.sh</pre> <pre>bin/scripts/dataMigrationSource.sh -force_checksum</pre> <p>ヒント: -force_checksumオプションを使用すると、データの移行にかなりの時間がかかる可能性があります。ただし、このコマンドでは、各ファイルがソースLoggerからターゲットLoggerに確実にコピーされたことを確認するための追加チェックが実行されます。</p>	
18	<p>ARCSIGHT_HOMEの場所を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を再入力します。</p> <p>このLoggerがアプライアンスであるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。</p> <p>ヒント: スクリプトは、Ctrl+Cキーを押すことで、いつでも終了できます。</p>	

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
19	<p>ターゲットLoggerのIPアドレスを入力するプロンプトが表示されます。</p> <p>IPアドレスの入力後に、内容を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力してIPアドレスを再入力します。</p>	
20	<p>ターゲットLoggerがアプライアンスであるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。</p> <p>「n」と入力した場合、ターゲットマシンのARCSIGHT_HOMEを入力するプロンプトが表示されます。(このユーティリティでは、LoggerアプライアンスのARCSIGHT_HOMEがデフォルト設定となっています)。</p> <p>ディレクトリの入力後に、内容を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を再入力します。</p>	
21	<p>アーカイブ移行の処理方法を検討するためのプロンプトが表示されます。</p> <p>オプション1: デフォルトのアーカイブ移行: アーカイブチェックが失敗すると、データ移行スクリプトは失敗して終了します。アーカイブチェックが失敗したためにスクリプトが終了した場合は、欠落しているアーカイブを復元して、スクリプトをもう一度実行します。</p> <p>オプション2: アーカイブチェックを無視: アーカイブチェックが失敗しても、データ移行を続行します。イベントアーカイブ設定 (アーカイブの設定メタデータとマッピング) が移行されます。欠落しているアーカイブは、元の場所に復元すればアクセスできるようになります。</p> <p>オプション3: アーカイブ移行をスキップ: アーカイブ設定メタデータは移行されません。アーカイブ移行ユーティリティを実行するまで、アーカイブにアクセスすることはできません。詳細については、「イベントアーカイブ設定の個別移行」(19ページ)を参照してください。</p> <p>以降のプロンプトは、選択する移行オプションに従って回答してください。</p>	
22	<p>アーカイブチェックが成功した場合にのみアーカイブを移行するか尋ねるプロンプトが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> オプション1: 「y」と入力します。ステップ 25 (16ページ)に進みます。 オプション2: 「n」と入力します。次のステップに進みます。 オプション3: 「n」と入力します。次のステップに進みます。 	

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
23	<p>「n」と入力した場合、一部のアーカイブが欠落していても、アーカイブ設定メタデータを移行するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> オプション2: 「y」と入力します。ステップ 25 (16 ページ)に進みます。 オプション3: 「n」と入力します。次のステップに進みます。 	
24	<p>「n」と入力した場合、アーカイブ移行をスキップするかどうか尋ねるプロンプトが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> オプション3: 「y」と入力します。ステップ 25 (16 ページ)に進みます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注意: このオプションを選択すると、移行後は、アーカイブ移行ユーティリティを実行するまでアーカイブにアクセスすることができなくなります。手順については、「イベントアーカイブ設定の個別移行」(19ページ)を参照してください。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 3つのオプションすべてに対して「n」と入力すると、ステップ 21 (15ページ)に戻ります。また、Ctrl+Cキーを押してスクリプトを終了することもできます。 	
25	<p>ソースLoggerとターゲットLoggerのデータディレクトリを確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力してデータを移行せずに終了します。</p>	
26	<p>データ移行ユーティリティによって、データの移行が開始されます。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注: 移行プロセス中に、ソースLogger上にダンプを実行するのに十分な領域があるかどうかのチェックが行われます。十分な領域がない場合は、必要な容量を示すメッセージが表示され、ソースとターゲットの両方のLoggerでユーティリティが終了します。ユーティリティを再起動する前に、その容量を解放する必要があります。データ移行ユーティリティを再起動する場合は、まずターゲットLoggerで開始してから、ソースLoggerで開始してください。</p> </div> <p>移行の進行状況は、user/logger/dataMigrationSource.outとuser/logger/dataMigrationTarget.outで確認できます。</p>	

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
27	<p>移行スクリプトが正常に完了したら、ソースLoggerで次のメッセージが表示されます。</p> <pre>source: Source box is done! source: Please make sure data migration has completed on the target logger before rebooting this logger.</pre> <p>注意: このステップが両方のLoggerで完了するのを待ってから、次のステップに進んでください。</p>	<p>移行スクリプトが正常に完了したら、ターゲットLoggerで次のメッセージが表示されます。</p> <pre>target: Data migration successfully completed! target: Please reboot target box!</pre> <p>注意: このステップが両方のLoggerで完了するのを待ってから、次のステップに進んでください。</p>
28	<p>ステップ 21 (15ページ) で選択したイベントアーカイブの処理方法に従って、ロガーを今すぐリポートするか、あるいは後でリポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> オプション1および2: データの移行とイベントアーカイブの移行は完了しています。今すぐリポートします。 オプション3: イベントアーカイブをすぐには移行しない場合は、今すぐリポートします。 オプション3: イベントアーカイブをすぐに移行する場合は、アーカイブの移行が完了してからリポートします。 	<p>ステップ 21 (15ページ) で選択したイベントアーカイブの処理方法に従って、ロガーを今すぐリポートするか、あるいは後でリポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> オプション1および2: データの移行とイベントアーカイブの移行は完了しています。今すぐリポート/再起動します。 オプション3: イベントアーカイブをすぐには移行しない場合は、今すぐリポート/再起動します。 オプション3: イベントアーカイブをすぐに移行する場合は、アーカイブの移行が完了してからリポート/再起動します。

データ移行の完了

[ステップ 21 \(15ページ\)](#) で選択したイベントアーカイブの処理方法に従って、次のステップを実行してデータ移行プロセスを完了します。

- オプション1および2: 次のステップを実行します。
- オプション3: イベントアーカイブをすぐには移行しない場合は、次のステップを今すぐ実行します。
- オプション3: イベントアーカイブをすぐに移行する場合は、アーカイブの移行が完了してから次のステップを実行します。

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
29		<p>ターゲットLoggerをソースLoggerと同じ設定にします。</p> <p>詳細については、「Logger間のデータの移行」(9ページ)と「移行後の作業」(27ページ)を参照してください。</p>

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
30		<p>次のファイルを編集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /etc/hosts.equiv • /root/.rhosts <p>次の行を削除します。</p> <p><ソースIPアドレス> root</p> <p><ソースIPアドレス>は、ソースLoggerのIPアドレスです。</p>
31	<p>リポート後に、ステップ 5 (11ページ)の手順に従って、ARCSIGHT_HOME環境変数をリセットします。</p> <p>次のコマンドを入力して、RSHファイルをクリーンアップします。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/ dataMigrationSource_rsh_cleanup.sh</pre>	<p>リポート後に、ステップ 5 (11ページ)の手順に従って、ARCSIGHT_HOME環境変数をリセットします。</p> <p>次のコマンドを入力して、RSHファイルをクリーンアップします。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/ dataMigrationTarget_rsh_cleanup.sh</pre>
32	<p>データ移行プロセス中に作成されるログファイルのgzipファイルを作成します。これを行うには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/ dataMigrationClean.sh</pre> <p>ARCSIGHT_HOMEディレクトリに、dataMigrationLog.2016-01-11PST164827.tar.gzのようなファイルが作成されます。</p> <p>この新しいファイルを別の場所にコピーして、ログファイルを保存します。</p>	<p>データ移行プロセス中に作成されるログファイルのgzipファイルを作成します。これを行うには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/ dataMigrationClean.sh</pre> <p>ARCSIGHT_HOMEディレクトリに、dataMigrationLog.2016-01-11PST164827.tar.gzのようなファイルが作成されます。</p> <p>この新しいファイルを別の場所にコピーして、ログファイルを保存します。</p>
33	<p>元のデータ移行ユーティリティのファイルを削除します。これを行うには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>rm -f \$ARCSIGHT_HOME/ datamigration*.tar.gz</pre> <p>注: ステップ 32 (18ページ) で作成したログファイルのgzipファイルが削除されます。このファイルを保存するには、別の場所にコピーしてください。</p>	<p>元のデータ移行ユーティリティのファイルを削除します。これを行うには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>rm -f \$ARCSIGHT_HOME/ datamigration*.tar.gz</pre> <p>注: ステップ 32 (18ページ) で作成したログファイルのgzipファイルが削除されます。このファイルを保存するには、別の場所にコピーしてください。</p>

イベントアーカイブ設定の個別移行

イベントアーカイブ設定は、アーカイブの設定メタデータとマッピングで構成されています。データの移行中にアーカイブの移行をスキップした場合、イベントアーカイブの検出方法をLoggerに通知するデータは移行されていません。したがって、Loggerの[イベント アーカイブ]リストにもアーカイブは表示されません。

アーカイブ移行ユーティリティは、これらのイベントアーカイブ設定を移行します。アーカイブの移行が完了すると、LoggerのUIにイベントアーカイブが表示され、アクセスできるようになります(期待される場所に存在する場合)。

注: アーカイブ自体は移動せず、元の場所のままですが、これらのアーカイブにターゲットLoggerからアクセスできるようになります。

アーカイブマッピングの移行プロセスは、データの移行プロセスとよく似ており、要件も同じです。アーカイブ移行ユーティリティは、データ移行ユーティリティと同じように、ソースLogger用とターゲットLogger用の2つのスクリプトで構成されています。これらのスクリプトは、ソースLoggerとターゲットLogger上で並列で実行する必要があります。

イベントアーカイブの移行手順

イベントアーカイブを個別に移行する必要があるのは、アーカイブの移行をスキップした場合のみです(「[Loggerアプライアンスからのデータの移行手順](#)」(10ページ)の3番目のオプション)。1番目または2番目のオプションを選択してアーカイブを移行した場合は、これらのスクリプトを実行しないでください。

Logger間でイベントアーカイブ設定を移行するには、次の手順を実行します。

注: 必ず、**ターゲット**Loggerスクリプトを開始してから、**ソース**Loggerスクリプトを開始してください。逆の順序では、データ移行プロセスが期待どおりに進行しません。

アーカイブの移行が途中で失敗した場合は、「[トラブルシューティング](#)」(28ページ)を参照してください。

データ移行ガイド
イベントアーカイブ設定の個別移行

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A1	アーカイブの移行を開始する前に、データ移行プロセスが、「 Logger間のデータ移行 」の少なくとも ステップ 27 (17ページ) まで完了していることを確認してください。	
A2	<p>アプライアンスへのSSHアクセスがまだ有効になっていない場合は、有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [システム管理] ページの [システム] で、[SSH] をクリックします。[SSH 設定] ページが開きます。[有効にする] をクリックします。 	<p>ターゲットLoggerへのSSHアクセスがまだ有効になっていない場合は、有効にします。</p> <p>Loggerアプライアンス:</p> <ul style="list-style-type: none"> [システム管理] ページの [システム] で、[SSH] をクリックします。[SSH 設定] ページが開きます。[有効にする] をクリックします。 <p>ソフトウェアLogger:</p> <ul style="list-style-type: none"> Loggerがインストールされているシステムに、SSHでアクセスできることを確認します。
A3	<p>次のファイルをコピーします。 datamigration-6.4-D1110.tar.gz</p> <p>コピー先: /opt/arcsight/logger</p> <p>これはLoggerのホームディレクトリで、アーカイブ移行ユーティリティからARCSIGHT_HOMEとして参照されます。</p> <p>注: ステップ 33 (18ページ) で、データ移行ファイルを削除しなかった場合は、このステップはスキップしてください。</p>	<p>次のファイルをコピーします。 datamigration-6.4-D1110.tar.gz</p> <p>Loggerアプライアンス:</p> <p>コピー先: /opt/arcsight/logger</p> <p>ソフトウェアLogger: Loggerのインストール先のディレクトリパスを使用します。デフォルト値は次のとおりです。 /opt/current/arcsight/logger</p> <p>これはLoggerのホームディレクトリで、アーカイブ移行ユーティリティからARCSIGHT_HOMEとして参照されます。</p> <p>注: ステップ 33 (18ページ) で、データ移行ファイルを削除しなかった場合は、このステップはスキップしてください。</p>
A4	LoggerにSSHでアクセスし、“root” ユーザーとしてログインします。	LoggerにSSHでアクセスし、“root” ユーザーとしてログインします。

データ移行ガイド
イベントアーカイブ設定の個別移行

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A5	<p>次のコマンドを使用して、ARCSIGHT_HOME環境変数を設定します。</p> <pre>export ARCSIGHT_HOME=/opt/arcsight/logger</pre> <p>注: ステップ 31 (18ページ) で、ARCSIGHT_HOME環境変数のリセットと、クリーンアップスクリプトの実行を行わなかった場合は、このステップはスキップしてください。</p>	<p>次のコマンドを使用して、ARCSIGHT_HOME環境変数を設定します。</p> <pre>export ARCSIGHT_HOME=/opt/arcsight/logger</pre> <p>ソフトウェアLogger上で環境変数を設定するには、次のコマンドを実行します。</p> <pre>export ARCSIGHT_HOME=<Loggerインストールディレクトリ>/current/arcsight/logger</pre> <p>デフォルト値は次のとおりです。</p> <pre>/opt/current/arcsight/Logger</pre> <p>注: ステップ 31 (18ページ) で、ARCSIGHT_HOME環境変数のリセットと、クリーンアップスクリプトの実行を行わなかった場合は、このステップはスキップしてください。</p>
A6	<p>次のコマンドを入力して、Loggerのホームディレクトリに移動します。</p> <pre>cd \$ARCSIGHT_HOME</pre>	<p>次のコマンドを入力して、Loggerのホームディレクトリに移動します。</p> <pre>cd \$ARCSIGHT_HOME</pre>
A7	<p>次のコマンドを入力して、圧縮ファイルを解凍します。</p> <pre>tar xzvf datamigration*.tar.gz</pre> <p>注: ステップ 31 (18ページ) で、クリーンアップスクリプトを実行しなかった場合は、このステップはスキップしてください。</p>	<p>次のコマンドを入力して、圧縮ファイルを解凍します。</p> <pre>tar xzvf datamigration*.tar.gz</pre> <p>注: ステップ 31 (18ページ) で、クリーンアップスクリプトを実行しなかった場合は、このステップはスキップしてください。</p>
A8	<p>次のコマンドを入力して、セットアップスクリプトを実行します。</p> <pre>bin/scripts/dataMigrationSource_rsh_setup.sh</pre>	<p>次のコマンドを入力して、セットアップスクリプトを実行します。</p> <pre>bin/scripts/dataMigrationTarget_rsh_setup.sh</pre>
A9		<p>ARCSIGHT_HOMEディレクトリを確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を入力します。</p> <p>「n」と入力した場合は、正しいARCSIGHT_HOMEディレクトリを入力するプロンプトが表示されます。</p> <p>ディレクトリの入力後に、入力した場所を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を再入力します。</p>

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A10		<p>これがアプライアンスであるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。</p>
A11		<p>/etc/hosts.denyファイルを編集して、次の情報を追加します。</p> <pre>in.rlogind: all in.rshd: all</pre> <p>注: ステップ 11 (12ページ) で、すでにこの情報を追加している場合は、このステップはスキップしてください。</p>
A12		<p>/etc/hosts.allowファイルを編集して、次の情報を追加します。</p> <pre>all: <ソースIPアドレス></pre> <p><ソースIPアドレス>は、ソースLoggerのIPアドレスです。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> クロスケーブルを使用している場合は、ケーブルの接続先のネットワークインターフェイスカード (NIC) のIPアドレスを入力してください。 ステップ 30 (18ページ) で、すでにこのファイルを編集している場合は、このステップはスキップできます。
A13		<p>/etc/hosts.equivファイルと/root/.rhostsファイルを編集して、次の情報を追加します。</p> <pre><ソースIPアドレス> root</pre> <p><ソースIPアドレス>は、ソースLoggerのIPアドレスです。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> クロスケーブルを使用している場合は、ケーブルの接続先のNICのIPアドレスを入力してください。 ステップ 30 (18ページ) で、すでにこのファイルを編集している場合は、このステップはスキップできます。

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A14		<p>次のコマンドを入力して、アーカイブ移行ユーティリティを実行します。</p> <pre>bin/scripts/dataMigrationTarget_Archive_Only.sh</pre> <p>ソフトウェアLoggerターゲットでは、rootではないユーザーが“arcsight”であるかどうかを尋ねるプロンプトが表示される場合があります。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、Loggerのインストール時に使用したroot以外のユーザー名を入力します。</p> <p>ユーザー名の入力後に、内容を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力してユーザー名を再入力します。</p>
A15		<p>ソースLoggerでアーカイブ移行ユーティリティを実行するよう促すメッセージが表示されます。</p> <p>注: スクリプトは、Ctrl+Cキーを押すことで、いつでも終了できます。</p>
A16	<p>次のコマンドを入力して、アーカイブ移行ユーティリティを実行します。</p> <pre>bin/scripts/dataMigrationSource_Archive_Only.sh</pre>	
A17	<p>ARCSIGHT_HOMEの場所を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を再入力します。</p> <p>このLoggerがアプライアンスであるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。</p> <p>ヒント: スクリプトは、Ctrl+Cキーを押すことで、いつでも終了できます。</p>	
A18		<p>ターゲットLoggerのIPアドレスを入力するプロンプトが表示されます。</p> <p>IPアドレスの入力後に、内容を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力してIPアドレスを再入力します。</p>

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A19	<p>ターゲットLoggerがアプライアンスであるかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。</p> <p>「n」と入力した場合、ターゲットマシンのARCSIGHT_HOMEを入力するプロンプトが表示されます。(このユーティリティでは、LoggerアプライアンスのARCSIGHT_HOMEがデフォルト設定となっています)。</p> <p>ディレクトリを入力後に、内容を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力して場所を再入力します。</p>	
A20	<p>データ移行の実行時に、アーカイブイベント設定を移行した場合は、このスクリプトを実行することはできず、次の警告が表示されます。 "You did not choose to skip archive migration last time, thus You cannot migrate archive separately."</p>	
	<p>アーカイブイベント設定を移行していない場合は、アーカイブ移行の処理方法を検討するためのプロンプトが表示されます。</p> <p>オプション1: デフォルトのアーカイブ移行: アーカイブチェックが失敗すると、アーカイブ移行スクリプトは失敗して終了します。アーカイブチェックが失敗したためにスクリプトが終了した場合は、欠落しているアーカイブを復元して、スクリプトをもう一度実行します。</p> <p>オプション2: アーカイブチェックを無視: アーカイブチェックが失敗しても、アーカイブ移行を続行します。イベントアーカイブ設定 (アーカイブの設定メタデータとマッピング) が移行されます。欠落しているアーカイブは、元の場所に復元すればアクセスできるようになります。</p> <p>以降のプロンプトは、選択する移行オプションに従って回答してください。</p>	
A21	<p>アーカイブチェックが成功した場合にのみアーカイブを移行するの尋ねるプロンプトが表示されます。該当する場合は、「y」と入力します。該当しない場合は、「n」と入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オプション1: 「y」と入力します。 ステップ A23 (25ページ) に進みます。 • オプション2: 「n」と入力します。次のステップに進みます。 	

データ移行ガイド
イベントアーカイブ設定の個別移行

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A22	「n」と入力した場合、一部のアーカイブが欠落していても、アーカイブ設定メタデータを移行するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。 「y」と入力して、次のステップに進みます。	
A23	設定を確認するプロンプトが表示されます。「y」と入力して続行するか、「n」と入力して設定を再入力します。	
A24	イベントアーカイブ設定を今すぐ移行するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。「y」と入力して確認するか、「n」と入力してイベントアーカイブ設定を移行せずに終了します。	
A25	アーカイブ移行ユーティリティによって、設定の移行が開始されます。 移行プロセス中に、ソースLogger上にダンプを実行するのに十分な領域があるかどうかのチェックが行われます。十分な領域がない場合は、必要な容量を示すメッセージが表示され、ソースとターゲットの両方のLoggerでユーティリティが終了します。ユーティリティを再起動する前に、その容量を解放する必要があります。 注: ユーティリティを再起動する場合は、まずターゲットLoggerで開始してから、ソースLoggerで開始してください。 移行の進行状況は、次のファイルで確認できます。 user/Logger/dataMigrationSourceArchiveOnly.outと user/Logger/dataMigrationTargetArchiveOnly.out	
A26	移行スクリプトが正常に完了したら、ソースLoggerで次のメッセージが表示されます。 source: Source box is done! source: Please make sure Archive Migration has completed on the target logger before rebooting this logger. 注意: このステップが両方のLoggerで完了するのを待ってから、次のステップに進んでください。	移行スクリプトが正常に完了したら、ターゲットLoggerで次のメッセージが表示されます。 target: Archive Migration successfully completed! target: Please reboot target box! 注意: このステップが両方のLoggerで完了するのを待ってから、次のステップに進んでください。
A27	Loggerをリブートします。	Loggerアプライアンスをリブートするか、ソフトウェアLoggerを再起動します。

	ソースLogger...	ターゲットLogger...
A28		<p>ターゲットLoggerをソースLoggerと同じ設定にします。詳細については、「Logger間のデータの移行」(9ページ)と「移行後の作業」(27ページ)を参照してください。</p> <p>注: ステップ 29 (17ページ) で、イベントアーカイブの移行を実行する前にLoggerを設定している場合は、このステップはスキップしてください。</p>
A29		<p>/etc/hosts.equivファイルと/root/.rhostsファイルを編集して、次の情報を削除します。</p> <p><ソースIPアドレス> root</p> <p><ソースIPアドレス>は、ソースLoggerのIPアドレスです。</p>
A30	<p>リポート後に、ステップ (21ページ) の手順に従って、ARCSIGHT_HOME環境変数をリセットします。</p> <p>次のコマンドを入力して、RSHファイルをクリーンアップします。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/dataMigrationSource_rsh_cleanup.sh</pre>	<p>リポート後に、ステップ (21ページ) の手順に従って、ARCSIGHT_HOME環境変数をリセットします。</p> <p>次のコマンドを入力して、RSHファイルをクリーンアップします。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/dataMigrationTarget_rsh_cleanup.sh</pre>
A31	<p>次のコマンドを入力して、移行プロセス中に作成されるログファイルのgzipファイルを作成します。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/dataMigrationClean.sh</pre> <p>ARCSIGHT_HOMEディレクトリに、dataMigrationLog.2016-01-11PST164827.tar.gzなどのファイルが作成されます。</p>	<p>次のコマンドを入力して、移行プロセス中に作成されるログファイルのgzipファイルを作成します。</p> <pre>\$ARCSIGHT_HOME/bin/scripts/dataMigrationClean.sh</pre> <p>ARCSIGHT_HOMEディレクトリに、dataMigrationLog.2016-01-11PST164827.tar.gzなどのファイルが作成されます。</p>
A32	<p>次のコマンドを入力して、元のデータ移行ユーティリティのファイルを削除します。</p> <pre>rm -f \$ARCSIGHT_HOME/datamigration*.tar.gz</pre> <p>注: ステップ A31 (26ページ) で作成したログファイルのgzipファイルが削除されます。このファイルを保存するには、別の場所にコピーしてください。</p>	<p>次のコマンドを入力して、元のデータ移行ユーティリティのファイルを削除します。</p> <pre>rm -f \$ARCSIGHT_HOME/datamigration*.tar.gz</pre> <p>注: ステップ A31 (26ページ) で作成したログファイルのgzipファイルが削除されます。このファイルを保存するには、別の場所にコピーしてください。</p>

移行後の作業

データの移行が正常に完了したら、次の手順を実行します。

1. ソースLoggerでファイルレシーバーが設定されていた場合は、適切なNFSマウントをターゲットLoggerに追加して、レシーバーがこれらのマウントポイントを使用するように設定します。NFSマウントポイントは、ソースLoggerのマウントポイントと同じである必要があります。

Loggerアプライアンスターゲットにマウントポイントを設定する場合は、Loggerのシステム管理インターフェイスを使用します。ターゲットがソフトウェアLoggerの場合、お使いのオペレーティングシステムに合わせてマウントポイントを手動で設定します。

2. ターゲットLoggerに移行されていないデータを作成して設定を実行します ([「Logger間のデータの移行」\(9ページ\)](#) のリストを参照)。
 - a. 設定のバックアップおよび復元機能を使用して (『Logger管理者ガイド』を参照)、ソースLoggerから**レポートコンテンツのみ**をバックアップし、ターゲットLoggerに復元します (レポートコンテンツのみをバックアップするには、[バックアップコンテンツ] フィールドで **[レポートコンテンツのみ]** を選択します)。
 - b. Loggerのコンテンツのインポート/エクスポート機能を使用して (『Logger管理者ガイド』を参照)、ソースLoggerからアラートとフィルターをエクスポートし、ターゲットLoggerにインポートします。

注: インポートしたアラートに通知先情報を追加しなければならない場合があります。

- c. 他のすべてのデータを手動で再作成します。
3. ソースLoggerで、Compliance Insight Packages for PCI/SOX/IT Governanceが展開されている場合、これらのパッケージをターゲットLoggerにリロードします。ソースLoggerのSOXフィルターが、soxfilters-1188.encファイルを使用してロードされている場合、このファイルはHPE ArcSightカスタマーサポートから入手できます。
 4. ルックアップファイルが正しく移行されなかった場合は、ターゲットLoggerでルックアップファイルを削除してから、ソースLoggerのルックアップファイルをアップロードします。

トラブルシューティング

- 移行プロセス中にデータ移行ユーティリティが失敗した場合は、**Ctrl+C**キーを押して、両方（ソースとターゲット）のLogger上でユーティリティを終了します。その後、[ステップ 8 \(12ページ\)](#) のデータ移行スクリプトと、[ステップ A14 \(23ページ\)](#) のアーカイブ移行スクリプトを再実行します。

注: ユーティリティを再実行する際は、必ず、ターゲットLoggerスクリプトを開始してから、ソースLoggerスクリプトを開始してください。

- 移行プロセスが中断した場合は、ソースLoggerとターゲットLogger上でスクリプトを再実行すると、操作は最初から再開されます。
- データ移行プロセスが失敗して、次のようなエラーメッセージが表示される場合があります。

```
source: event archive checking failed!
```

この場合、リモートマウントポイント（ソースLoggerのマウントポイントと一致）がターゲットLogger上でセットアップされていることを確認するか、別のアーカイブ移行オプションを選択することを考慮してください。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on データ移行ガイド (Logger 6.4)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、arc-doc@hpe.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。